

RISTシンポジウム フォーラムについての一考察

RIST幹事
熊本大学 准教授
松田 俊郎



RISTの2018年度企画委員・幹事を務めました熊本大学の松田俊郎でございます。

私は熊本出身で、済々黌、九州大学を経て1978年に日産自動車(株)に入社し、自動車の電子制御や電気自動車の研究開発を行ってきました。その後、2013年2月に熊本大学に赴任してからRISTの活動に関わりましたので、30周年を語れる経験はありませんが、小職の自動車業界の経験からRISTの意義を考えてみたいと思います。

1970年代の自動車は機械部品そのものが機能であり、新機能の実現や最適化は困難でしたが、1980年頃、自動車にマイクロコンピューター(CPU)が導入され始めました。私は当時の先端技術のCPU(日立製6801)を使って自動車のブレーキを制御するABS(アンチロックブレーキシステム)の開発を担当し車両運動最適化理論を研究して電子回路と機械語(アセンブラ)に織り込み5年をかけて製品化しました。1980年代はエンジン制御やABSを始めとするいろいろな電子制御システムが誕生し車両の性能/機能が大きく向上した時代です。その後、車両のいろいろなシステムや機能を統合したトヨタプリウスのハイブリッドに代表される車両総合制御システムが商品化されました。昨今では、個々の車両の総合制御に加え、車

両がインターネット空間とつながり、自動運転、カーシェア、交通システムなど、より高度で広い領域での技術発展/ビジネス創造が進んでいます。

以上を一般化すると、技術やビジネスの発展領域が、要素(大学の研究や地場企業の専門領域)から、より上位のシステム領域、複合分野領域に拡大していると捉えることができます。

熊本の企業は、製造装置や情報システム等、B to Bスキームの業種が多いと思いますが、短期的な客先情報だけでは、事業や研究の中長期的なプランニングは困難であり、先端の市場動向、業界動向を定期的に把握し、いろいろな分野をまたがった技術発展の可能性を考えることが重要です。

RISTの毎年恒例のシンポジウム、月例のフォーラムは、これらをカバーできる内容であり、より多くの皆様に来場して頂きたいと思います。首都圏でのいろいろなシンポジウムに出席する際の会費や旅費を考えると、熊本で参加できるRISTの行事はコストパフォーマンスが高いと思います。パフォーマンスをさらに上げる為にはRIST企画委員会の活動が重要になります。県内の産学関係の皆様はRISTへ参画と、さらには企画委員会への参画を頂ければ幸いです。